

# 市公連だより

## 公民館紹介

「館」のないハンディを

乗り越えよう！

箱田公民館

館長 河西 昌美

箱田公民館には「館」がありません。だから公民館事業は会議室を借りるか、野外で行うかの方法しかありません。更にその事業を地域住民にどう周知するかが、大きな課題となっています。

現在は「公民館だより」に掲載し回覧していますが、回覧は一日一軒回るとしても、十五軒の班なら十五日間かかります。しかもその問合せは主事の自宅になります。

つまり、事務所ナシ、電話ナシ、コピー機ナシ、パソコンナシの無い無い尽くしの公民館の苦勞は、ひと言では語りつくせません。



《バス研修：和銅遺跡見学「聖神社」》

しかし「泣言」を言っているのも始まりません。無い部分は皆で知恵を出し合い工夫して補完していくしか道はありません。例えば公民館事業の住民への周知は、職員が自治会の役員会をはじめ、民生委員会、クラブ活動などあらゆる機会を活用し、口伝えでPRに努めています。また、事業の企画立案は、他の公民館の「公民館だより」を徹底的にチェックし、参考になる記事は切り取り、ファイルするとともに、資料を取り寄せ保存しています。

### 第 3 8 号

発行者  
熊谷市  
公民館連合会  
会長 渡辺 正  
事務局  
熊谷市  
中央公民館  
電話 048-523-0895

これ等は、ほんの一例ですが、要は皆で知恵を出し、創意工夫して力を合わせれば、どんなハンディキャップも乗り越えられると確信しております。

現在、期待の第一中央生涯活動センターの建設も、建設用地を物色中との事で、先行き不透明な上、最近県と市の合同庁舎の計画が出て一層複雑になっています。

従って「館」のない公民館として、暫く我慢我慢の日々が続きそうですが、地域の皆さんと力を合わせて、この苦境を乗り越える覚悟です。

### 地域と共に歴史を刻む

#### 公民館づくり

江南公民館

館長 前川美佐保

江南公民館は、緑豊かな丘陵地帯に位置し、うぐいすや

カッコーの声、蛍飛び交う場所として皆様方に親しまれています。「広げよう！地域のふれあい！安心・安全」をテーマに地域の皆様の心身の健康増進とふれあいの場の提供を目指しています。

素朴な佇まいやどこか懐かしい風情のある地域で、現在の人口は約一万一千八百人、世帯数は五千六百二十八世帯です。

江南公民館では通年事業の「健康いきいき学級」と回毎に参加を募る「美萌咲」があります。ほかに学習団体を講師としての事業、地区内にある病院の先生を招いての医療に関する講座、子供たちとその保護者に向けた親子講座、文化祭、クリスマスコンサート等、盛りだくさんの行事を展開しています。

江南地域は、考古資料として貴重な文化財にも恵まれ、日本最古、2番目、3番目に古い板碑の生まれたところであり、地区内には、日本三大文殊の一つである文殊寺があ

り、その付近で『踊る埴輪』も発見されています。地域の特徴を生かした講座も多く取り入れてきました。

また江南公民館では、小江川自治会の荒廃地解消を目的とした桜千本事業に協力した



《桜を見ながら里山ウォーク》

り、熊谷市環境政策課と共催で、桜の見ごろに合うよう期待し、その地を歩く里山ウォークを開催しています。

これからも、江南公民館は地域と連携し憩いの場を提供し、生涯学習を勤しむ場所として地域の皆様に親しまれるよう邁進いたします。

【美萌咲】ミモザの花のように、上品で魅力ある素敵な人になるための学級講座

## 更なる発展へ

熊谷市公民館連合会会長 渡辺 正



先般の市公連総会において、新たに就任いたしました渡辺です。前任の吉野会長様は本会の組織の活性化に大変ご尽力されました。その後任として責務を完遂することは不安な点もありますが、皆様のご指導とご協力を戴いて誠心誠意務めてまいる所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

市公連にとって重要なテーマでもあります「公民館再編」がスタートいたしました。四月現在、埼玉県内には二百九十六の公民館が存在します。その中で熊谷市の公民館数三十五館は飛び抜けて多く、二

位の川越市の十八館の二倍近くも多く、他の市町村は殆んど十館前後の状況です。つまり我々熊谷市の公民館は他市町村に比べ圧倒的に多く、それだけ市内全般に公民館が配置されて、それぞれの地域の人々に有効利用されていることを示しています。

先般発表された人口動態統計によると、国の想定より十五年ほど早いペースで人口減少が進行していると提言しています。熊谷市も対応を追われています。熊谷市も対応を追われていると思いますが、「公民館再編」もその対応の一環であると思われる。

公民館の基本理念である「集う、学ぶ、結ぶ」という目的の下に、各公民館には夫々に長い歴史と地元と融合した文化と伝統があります。各々の公民館で知恵を出し合い、地域の活力増進に寄与することを目指して新しい編成に對

応した公民館づくりに皆様の更なる協力をお願いいたします。

## 地域活動の中心として

熊谷市教育委員会教育長 渋谷 昌美



公民館連合会の皆様におかれましては、日頃から公民館活動の推進に御尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。

令和7年度、貴連合会では新たに渡辺会長さんが就任なさいました。新会長の御指導のもと、公民館相互の連携を深めるとともに、公民館活動の更なる発展及び推進が図られるものと確信いたしております。

また、昨年度で会長職を退任されました吉野館長さんには、本市の生涯学習活動の推進に多大なる御尽力をいただき



きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、現代社会においてはデジタル化が進み便利になる一方で、多様化が進む社会において、社会教育は個々の多様性を尊重し、社会全体を豊かにするための重要な役割を担っています。こうした中、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の役割を担い、地域活動の中心となる公民館に寄せられる期待は非常に大きいものと存じます。

生涯学習活動の拠点である公民館において、中心的な役割を担う皆様には、地域を元気にする新たな視点での活動等、一層の御活躍を期待しております。

結びに、貴連合会の益々の

御発展と会員皆様の御健勝を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

## 定期総会報告

5月13日(火) 妻沼中央公民館において、令和7年度熊谷市公民館連合会総会が開催されました。議事として令和6年度の事業報告・決算報告、及び令和7年度の事業計画・予算・役員等が審議され、承認されました。

### 【令和7年度役員】

会長 渡辺 正 (玉井)  
副会長 新井弘一 (大原)  
副会長 岩田秀夫 (熊谷東)  
副会長 瀧澤繁雄 (上石)  
各ブロック長

第一 岩田秀夫 (熊谷東)  
第二 前澤保雄 (星宮)  
第三 大澤 清 (新堀)  
第四 大澤 勇 (荒川)  
第五 岡 幸江 (大幡)  
第六 新井英一 (太田)  
監事 田代博也 (本町)  
細川末廣 (桜木)

※敬称略

# ふるさとに学ぶ

## 秦村大字俵瀬から

秦 公民館

館長 荻野 俊行

秦という地区名は、明治二年の町村制施行によりできた村である。荻野吟子が東京本郷に医院を開業した四年後のことである。

私の生まれ育った俵瀬は、寛文四年（一六六四年）俵島から、現在の字名に改称した。水場であったためか、字地はいろは歌の、を、迄の十二区画、現在もそれが生きている。このことは『新編武蔵風土記』に記されてもいる。いかにも川つ淵の村らしいので、この呼び方が好きである。

静かなこの村に、思いもよらぬ番組をテレビで見た。小学生の頃で記憶が判然としなが、女医を主人公にしたドラマ。吟子のこと？であれば二度目の出会いだった。

三度目は昭和三九年、大空真弓主演の吟子の物語。そういう凄い人が居たんだあ、くらしい話で終わった。きつと、

東京オリンピックに夢中だったのかも知れない。

その後、北海道・瀬棚町との交流や秦小学校内に女史の碑が建立され、町を挙げての顕彰が始まった。

四度目は、小説『花埋み』を渡辺淳一氏が発表。ここで吟子は全国の人物となる。昭和四五年刊行の初版本を小脇に抱えて大学に通った。大学卒業後は就職し、生まれ育った俵瀬には縁遠い生活になってしまった。



《荻野吟子記念碑・胸像》

吟子を知った最初は幼少時、そのころ、咳やクシャミが出ると直に熱が出てしまう花車な少年だった。ある日のこと、くるまや（荻野の総本家）の前を通ると、お津多婆さんが

「技量づくからこれ食つてみろい」勧めに応じて食べた。砂糖醬油で焼いた肉？でフワリとした食感。度々馳走になった。実に美味だった。

お津多婆さんは話好きで、いろんな話をしてくれた。中でも興味深かったのが「今はねえけどな、女で医者様になった偉い人がいたんだ」続けて「四軒先の畑とこだ、行つてみろい」

生家跡は、苔むした石垣が少々確認でき、北に延びていた。その時が、女医荻野吟子への思いを馳せた最初。

令和六年三月三日、俵瀬の総会が行われた。ある長老が「昔、お津多婆さんと何か食つてたな。あれ、シマだで」

【技量づく】元氣が出る  
【シマ】シマヘビ

## 三つの「風景」に学ぶ

桜木公民館

館長 細川 末廣

桜木公民館は熊谷駅の荒川側桜木小学校校区の曙町・万平町・桜木町の地域にあります。ここには北から「旧中山道」と八丁の一里塚」「旧桜堤跡

と万平公園」「新桜堤と荒川」の三つの「風景」があり、地域の人々の生活に歴史と潤いを与えています。

## 「旧中山道と八丁の一里塚」

熊谷駅東の踏切を渡ると右下に繋がる旧中山道があり、その途中の曙公園南に「八丁の一里塚」があります。

徳川家康が江戸からの道一里（四町）ごとに設けた旅の目印、休憩所で盛土に榎や松を植えたと言われる、この塚の上りは「久下新田の一里塚」下りは「新島の一里塚」です。

江戸後期の浮世絵師「英泉」の「八丁堤の景」に描かれ、当時の様子を物語っています。



《万平公園の桜堤風景》

## 「旧桜堤跡と万平公園」

旧桜堤は十六世紀後半、鉢形城主の北条氏邦が荒川の洪

水から町を守るため築堤、「北条堤」とも呼ばれています。江戸時代に堤が増設され久下までつながり、桜の名所として有名になりました。

明治十六年桜堤の再生を目指し竹井濬如氏や町民によりソメイヨシノを植樹し、明治の末には「一目千本」と言われる桜堤となりました。

戦後、この堤は崩され、記憶の中の桜堤として残っています。幸い、その一部が万平公園の北側に五つの石碑と共に残されています。

## 「新桜堤と荒川」

戦後、旧桜堤にかわり現在の新土手が作られ、全国桜百選に入るような素晴らしい桜堤になりました。

堤の南は秩父に源流をもつ荒川が流れ、ここから「く」の字に西に曲がり東京湾に流れています。堤と荒川の間はラグビー場や多目的グラウンドがあり、夏には花火大会が開かれます。

今、荒川「かわまちづくり」計画が始まりました。川を身近に感じる場が出来ることを楽しみにしています。

## 学級講座紹介

### 地域住民の学習 交流、

#### 活動の場をめざして

玉井公民館

江利川知恵子

玉井公民館は熊谷市西部に位置し、所管する区域は、玉井・久保島・高柳と広く、人口は約九千八百人、世帯数は四千世帯を超えます。

公民館事業については公民館だよりでお知らせ募集等を行っています。また、周知を図るため、毎月、毎戸配布での発行をしています。

公民館学級講座としては、旬の話題を取り上げた「タイムリー学級」、健康・生活をテーマとした「ライフケア学級」、楽しく生きることをテーマとした「ハッピー学級」の3学級を開設しています。それぞれ、テーマに沿った3講座を用意し、学級ごとに参加者の募集をかけています。

玉井公民館の学級講座の特色の一つとして、毎年開催している「国際交流講座」があります。市の国際交流協会に

講師を紹介して頂き、その国の歴史、地理、気候風土、生活文化等について講義をして頂きます。過去の講座では、スリランカ、ドイツ、インドネシア、マケドニア、モンゴル、ペルー、台湾、中国、ニュージーランド、アメリカ、フランスなど多くの国々を学びました。

令和5年度の講座は、講師にアメリカ空軍将校で、当時自衛隊熊谷基地で指導を行っていたアオ・ジェームズ氏を迎えて講義をして頂きました。奥様の絵里香さんも一緒に参加してくださり、最後に色とりどりのアメリカのお菓子を頂きました。「アメリカで美味しいものを食べるならニューヨーク・ブズ！」とおっしゃっていたことが記憶に残りました。

令和6年度の国際交流講座はフランスです。パリオリンピック開催に合わせて依頼させて頂きました。講師は佐藤ナビラ氏です。フランス革命の歴史や幼稚園から義務教育が始まること、塾に通う文化がないことなど、日本との違いに参加者の皆さんは驚いた

様子でした。最後にフランス語で「オーシャンゼリゼ」を



《国際交流講座の様子》

披露してくださいました。

公民館学級の一部を紹介させて頂きましたが、これからも地域の皆さんが楽しく集い、参加できる学級運営を目指していきたいと思っています。

### 「さわやかほえみ学級」の紹介

佐谷田公民館

館長 橋本 耕作

佐谷田公民館の学級講座では健康でいられることを願った内容にしています。そのためには五感を使った学習内容がふさわしいと考え、講座も知的側面、情操面、体力面に配慮して進めています。

また地域の自然の特色を活かせる面も大切にしています。令和七年度については、次

の講座を計画しています。

四月 ウォーキング教室

五月 かわいい鉢を作る陶芸教室

教室

六月 クラフト教室（夏のバツグ四回）

八月 人権教育研修

十二月 正月しめ縄づくり教室

正月 活け花教室

一月 芸術鑑賞

二月 アクセサリー講座

募集は毎月の公民館だより及び口コミです。

四月に実施した講座の一部を紹介します。

運動面でのウォーキング教室では、室内で準備運動と現状の体のくせや履物の調整・確認も実演や講話を通して学習できました。その後屋外に出て25mの距離を歩速を意識しての歩行を体験しました。

（通常・やや早い・最速歩行）この体験を通して健康面に留意した無理のない長く続けられる考え方を伺うことができました。

健康の源は食べること、食育面では野菜ソムリエの資格を持つ講師から旬の野菜や肉類の重要性、減塩などを、薬剤師の講師からは薬への知識



《ウォーキング教室の様子》

やサプリについての考え方も学習できました。

また、社会教育課の人権講座を活用して人権感覚の醸成や確認も図るものになっています。

参加スタイルは、笑顔で進められるように無理せず楽しくそしてコミュニケーションを取りあうことを大切にしていきます。

今後とも地域との連携と協力を図りながら講座の充実に努めていきたいと考えています。

### 編集後記

市公連だより38号の発行にあたり、寄稿いただきました執筆者の皆様、編集に御協力いただきました皆様、誠に感謝申し上げます。今後も紙面を通して各公民館の活動や取組を情報発信できるように、読みやすい紙面作りを心がけてまいります。